

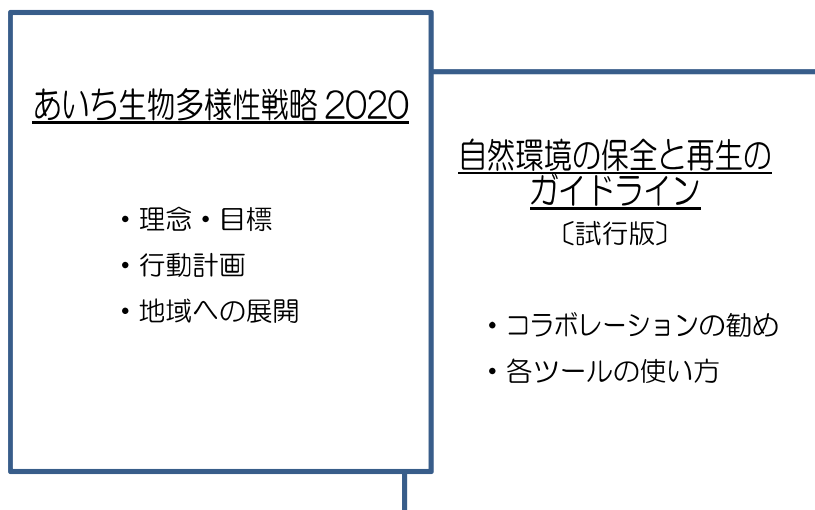
あいち生物多様性戦略 2020 及び 自然環境の保全と再生のガイドラインの概要

1. あいち生物多様性戦略 2020 について

- COP10 で採択された「**愛知目標**」の達成に向けた本県の行動計画
 - ・ 現行の「あいち自然環境保全戦略」(平成21年3月)の見直し年次を前倒して策定
 - ・ 「あいち方式」を中核的な取組として位置付け
- 「あいち方式」の先駆性・戦略性
 - ・ 多様な主体の**コラボレーション(協働)**のもと、人のつながりを育みながら「**生態系ネットワークの形成**」を進め、「**人と自然が共生するあいち**」を実現
 - ・ 開発と生物多様性の保全の調和を目指す**我が国初の仕組み**である「**あいちミティゲーション**」を導入
 - ・ 人と自然の関係を現代に甦らせ、**地域共有の財産(コモンズ)**としての「**新しい里山**」づくりを提唱
 - ・ 県内の9地域において、地域特性に応じた生態系ネットワークの形成を展開
 - ・ 行動計画の個別取組を統合的・横断的に推進

2. 自然環境の保全と再生のガイドラインについて

- **新戦略の推進ツール**として策定
 - ※ 来年度から**2か年試行** ⇒ 定量評価手法の有効性・信頼性などの検証、改善
- 多様な主体が、共通の目標に向かって**コラボレーション(協働)**により生物多様性保全の取組を行う「あいち方式」を進めていく際の**基本的な考え方や手順を示したもの**。
 - ・ 以下の具体的なツールを提供
 - 「生物多様性ポテンシャルマップ」 → 目標の共有
 - 「あいちミティゲーション定量評価手法」 → 取組成果のものさし
 - 「生態系ネットワークチェックリスト」 → 気付きの促進



あいち生物多様性戦略 2020 ～愛知目標の達成に向けて～ の概要

2010年 COP10

戦略計画 2011-2020 (愛知目標)

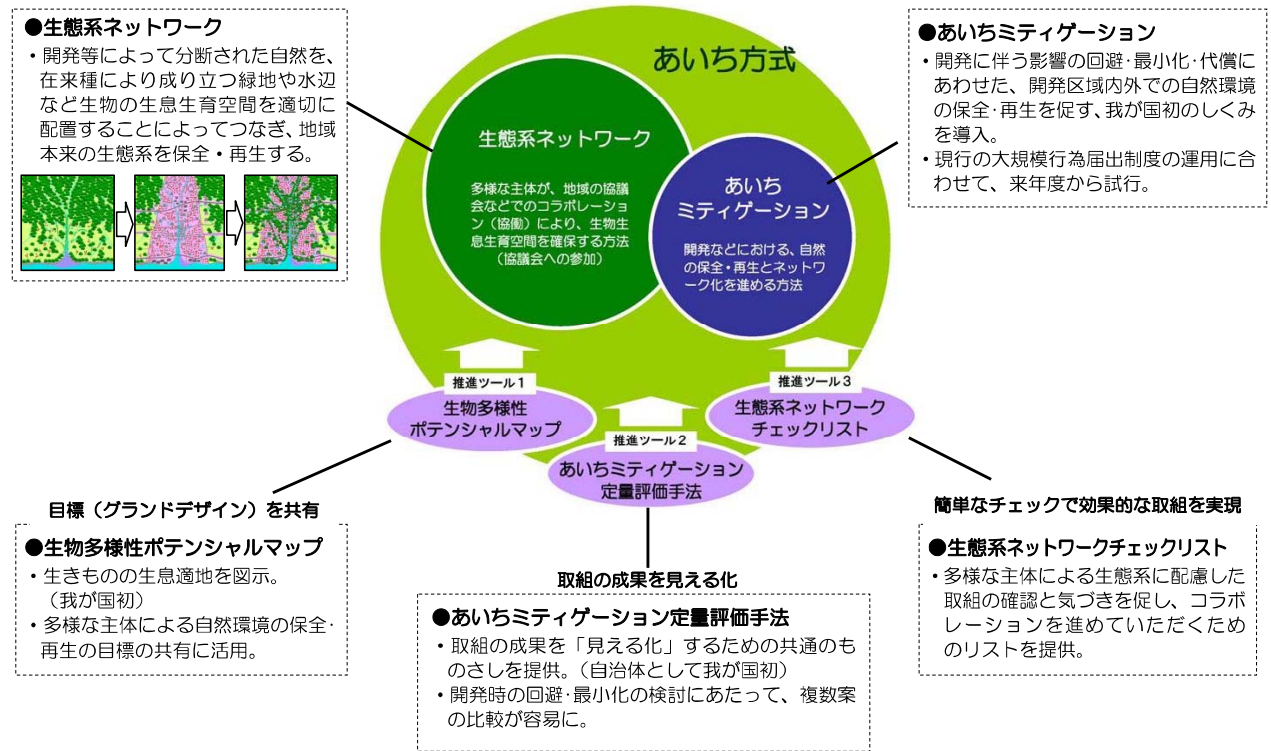
【第1章】理念と目標

～「人と自然の共生」に向けた、あいちのコラボレーション～

基本目標 「人と自然が共生するあいち」の実現
目標 2020 生物多様性の損失を止めるための具体的な行動の展開

愛知県独自の取組 ～あいち方式～ ⇒ 「自然環境の保全と再生のガイドライン」により推進

県民、事業者、NPO、行政といった地域の多様な主体が共通の目標のもとにコラボレーション（協働）しながら、効果的な場所での生物の生息生育空間の保全・創出の取組を行うことにより、生物多様性への意識を高め、人と人とのつながりを育みながら「生態系ネットワーク」の形成を進め、「人と自然が共生するあいち」を実現する、本戦略の行動計画を統合的に推進・実現していくための仕組み



【第2章】生物多様性の危機

～転換点にある私たちの暮らし～

○地球の生物多様性の危機

- 地球の歴史でもっとも急な生物の絶滅（化石記録の100～1,000倍）
- 約38億年かけてつくられた生物多様性をこの数百年で破壊

○あいちの生物多様性の危機

- 植物680種、動物528種がレッドデータブックに記載
- 生物生息場所も大きく減少

【第3章】行動計画

～「自然との共生」心豊かな暮らしに向けたチャレンジ～

- A.生態系ネットワークの形成
- B.経済と生物多様性の調和
- C.野生生物の保護と管理
- D.生物多様性の価値の共有
- E.多様な主体の参加と協働

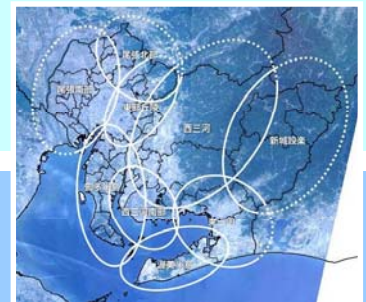
214の行動計画
32の数値目標

あいち方式で統合的に推進

【第4章】地域への展開

～気づき・まもり・つなげるコラボレーション～

- 多様な主体が目標の共有のもと、コラボレーション（協働）する場として、県域を9地域に区分し、地域ごとに「生態系ネットワーク協議会」を設置し、取組を展開
- 県内各地域の特性を踏まえ、各協議会において推進が期待される主な取組を提案



【第5章】推進の仕組み

～評価・点検と役割分担～

- 行動計画の進捗状況について評価と点検を行い戦略を推進
- 県民、事業者、NPO、研究者、行政といった各主体に期待される役割分担とコラボレーション（協働）の重要性を提示